

# フリッカー刺激呈示時の後頭部のヘモグロビン濃度変化(日本基礎心理学会第24回大会,大会発表要旨)

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-02 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: Taya, Shuichiro, Maehara, Goro, Kojima, Haruyuki メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2297/7220">http://hdl.handle.net/2297/7220</a>

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



発表番号：2 P 5 0

発表題目：フリッカー刺激呈示時の後頭部のヘモグロビン濃度変化

発表者： 田谷修一郎・前原吾朗・小島治幸（金沢大学）

要旨：フリッカー刺激呈示中の後頭部の血流変化を，近赤外分光分析法（NIRS）によって計測した。刺激は7.5Hzで明暗が反転する半径約7度の放射状チェッカーパターンであり，視野全体，もしくは上下左右に4分割した視野に呈示された。1計測セッションでは15秒の刺激呈示と30秒の休息を5回繰り返し，この間のヘモグロビン濃度変化を，後頭部に3cm間隔で正方形に配置した4×4のプロープによって計測した。呈示視野条件別にそれぞれ2セッションの計測を行った結果，刺激の呈示開始に対応して酸化ヘモグロビン濃度が上昇し，脱酸化ヘモグロビン濃度が減少することが示された。ヘモグロビン濃度変化は，上半視野よりも下半視野に刺激を呈示した条件で顕著であった。また，左右いずれかの半視野に刺激を呈示した場合，刺激呈示視野の逆側でより顕著なヘモグロビン濃度変化が認められた。